



6月7日、8日に札幌市で開催された第17回YOSAKOIソーラン祭りに「瀬棚気合一本!!」が出場しました。檜山管内唯一のヨサコイチーム「瀬棚気合一本!!」は、13回目の出場となり、姉妹都市ハンフォードの高校生8人や旗振りを含めて36人が参加しました。

メンバーは、せたな町（瀬棚20人、北檜山3人、大成1人）はもちろん、今金町（1人）寿都町（1人）小樽市（1人）東京都（1人）からも合流しました。踊り子達は、練習を重ねてきた成果を、大勢の観客の前で楽しく元気よく披露してきました。

振り付けは、チームのメンバーが中心となって作ったもので、衣装も瀬棚区のボランティアセンターや町内の縫製工場の協力を受けての手づくりです。

今後は、町内など近隣のイベントに参加する予定です。

編集後記

▼「まだ食べれるのに、使えるのに、捨てるなんてもったいない」エコやリサイクルといった考え方が一般的になるにつれ昔から日本には「もったいない」の精神がありました。それには、感謝の心・謙虚な心・優しい心が込められています。「もったいない」の単語を、一言で言い表す英語はありません。長い年月をかけて培われてきた日本の良き伝統・文化でありながら、つい忘れられがちな「もったいない」の精神を、北海道洞爺湖サミットの開催をきっかけに、今こそ見直して見ませんか。▼今回は、北海道洞爺湖サミットにあわせて環境問題の特集してみました。地球規模での環境問題は、各種マスコミなどで連日報道されているので、あえて身近な切り口でご紹介してみました。農林漁業の皆さんにはお忙しい中、インタビューに応じて頂き誠にありがとうございました。取材を通じて、自然と人間が共存することはとても難しいことですが、一人ひとりが昔ながらの生き方や精神を今一度見直し、エゴからエゴな暮らしへ、環境と調和する真の豊かな暮らしへの第一歩を踏み出すことが、自然環境との「共存共栄」に繋がるものと感じました。(乾・藤谷・稲船)

